



水田の水管理を徹底しましょう!!

水田で農薬を使用する場合の水管理のポイント

水田への農薬散布後7日間は落水・かけ流しをしないようにしましょう。

田植え前の除草剤散布でも、7日間は落水しないようにしましょう。

あぜ塗りや畦畔シートで、畦畔からの漏水を防ぎましょう。

「水管理」の徹底が農薬の効果を安定させ、環境保全にもなります。

- 水稻農薬の効果を安定して発揮させるためには、「水管理」が重要なポイントです。
- いくら効果の高い農薬を使用しても、散布後の落水やかけ流し、畦畔からの漏水で農薬が水田から流れ出てしまえば、効果は著しく低下してしまいます。
- 環境保全の観点からも水管理を徹底し、農薬が河川などに流れ出るのを防ぎましょう。
- 農薬の散布にあたっては、水路や周辺作物などに農薬が飛散しないように注意しましょう。

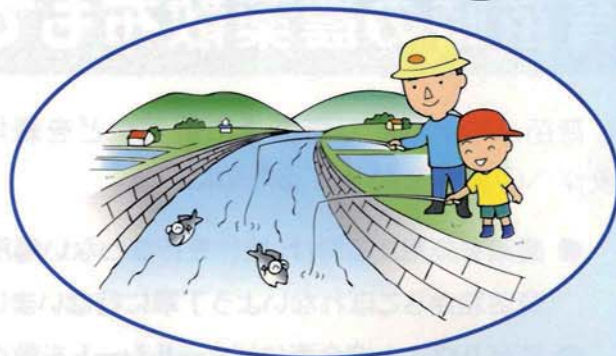
**7日間
落水しない!**

**水田への農薬散布後
7日間は、落水・かけ流しをしない
ようにしましょう**

環境保全や効果の安定の観点から、
農薬の水田外への流出を防ぎましょう。

畦畔管理で漏水を防ぎましょう

あぜ塗りをしたり、畦畔シートの使用で
漏水を防ぎましょう。
また、かけ流しによるオーバーフローや、
散布時の水路などへの飛散にも注意
しましょう。



JAグループ



* 水田で使用する農薬については、散布後7日間は落水しないように注意事項が変更されました。農薬のラベル変更には時間を要しますのでラベル記載内容に関わらず7日間は落水、かけ流しを行なわないでください。使い残した農薬は、適切に処理してください。

クミアイ安全防除推進協会

石原バイオサイエンス㈱、大塚化学㈱、協友アグリ㈱、クミアイ化学工業㈱、三共アグリ㈱、サンケイ化学㈱、シンジェンタ ジャパン㈱、日産化学工業㈱、日本農薬㈱、バイエル クロップサイエンス㈱、BASF アグリ㈱、北興化学工業㈱、三井化学クロップライフ㈱